

検知器によるアルコールチェックの状況について（意見交換）

（含む店長さんの指導等）

改正点の要約

✓ 2022年4月1日より、安全運転管理者の義務に以下が追加

- ① 運転前後の運転者の状態を目視等で確認し、運転者の酒気帯びの有無を確認すること
- ② ①の結果を1年間記録・保存すること

✓ 検知器によるアルコールチェックが義務化されると、安全運転管理者の義務に以下が追加

- ① 4月に追加された目視等による確認の義務に加え、さらに検知器を用いたアルコールチェックを実施すること
- ② ①の結果を1年間記録・保存すること
- ③ 正常に作動し故障がない状態のアルコール検知器を、常に保持しておくこと

冬の交通安全運動とこの時期の運転で特に気をつけたいこと (飲酒運転)

エアフォルクGPホームページより抜粋

この時期の交通事故防止においてどの県でも重点項目に挙げていて取り締まりにも力を入れているのが『飲酒運転』です。

実際にアルコールが分解されて体外に排出されるかどうかは飲んだアルコール量と経過時間によるのです。個人差はありますが、アルコール20gが抜けるのに約4時間かかると言われています。



- ・ビール 中ジョッキ1杯(500ml) ・ワイン グラス2杯(200ml)
- ・酎ハイ7度 1杯(350ml) ・焼酎25度 コップ半分(100ml)
- ・日本酒 1合(180ml) ・ウイスキー40度 ダブル1杯(60ml)



3杯も4杯も飲んでしまうと12時間以上経過してもまだ酒気が残っている